

両国祭英語劇

9月10日(土)・11日(日)
参加生徒数:108名

～ The Flowers That We Saw With You ～

中高一貫制と同時に始まり今年で6年目となる英語劇。

オープニング・アクトは、中高一貫完成記念として、これまでの全5作品のレビューが上演されました。このオープニング・アクトでは、英語劇 OB である両高生が生徒として初めて脚本にも挑戦。また、「文芸部」を新設し、先生と生徒と一緒に台本のチェックを行いました。

本編は、殺処分されてしまう犬たちを擬人化し、動物管理センターを児童養護施設に置き換えて演じられました。人間の身勝手さに翻弄される犬達を描いた作品で、とても考えさせられ、深く心に沁みる作品でした。

～ 夏休みの練習中に、作品を創り上げていく過程の意気込み等を生徒と先生に聞きました ～

◆生徒談

- ☆ 英語は棒読みになり易いので、言葉の意味を考えて表現するように心がけています。
- ☆ 犬の純粋な気持ちや、人間の残酷さを演じるので、見る方には、それを感じてほしいです。
- ☆ 内容の大部分を生徒が演出し下級生を指導しているので、やりがいが大きいです。



◆先生談

今年の英語劇のテーマはペットの殺処分問題で、過去5年間扱ったことのない題材ですが、身近な問題で、かつ、根深い問題を抱えていると考えています。ドリームパラダイス(ドリーム BOX)にいる犬達は、人間を信じて、自らに死の世界が待っていることを知らずにいます。そんな物言えぬ犬たちを演じるからこそ、皆にしっかりと台詞の内容を伝えてほしいと思っています。難しいことですが、これこそが英語劇だと考えています。また、役者には演者として自分の殻を破って演じ、役になり切りたいと思っています。そして、プロ意識を持ち、観客を楽しませ、心に響く演技をして、役者として自立してもらいたいと考えています。観てくださる方たちには、犬を人に置き換えながらこの問題を身近に感じて欲しいと思います。



← 演出リーダー

全体をしっかり見て皆をよくまとめあげ、裏方にも気遣いができるかと評判でした。

→練習の前には、自主的に筋トレ・柔軟を行います。
また劇の内容について事前学習も十分に行われ、ソーシャルライザー聴導犬育成士の方を招いての講演会も行われました。



熱演する、生徒たち

☆ 名 場 面 ☆



レインボーメーカーを全員で歌う



感動的な、リオとエンジェルの別れ

再会を果たし、レインボーローズを見つける、印象的なシーン



テーマ曲「The Flower That We Saw With You」を熱唱するフィナーレでは、子供たちの歌声の素晴らしさにも、涙が止まりませんでした。



英語劇終了後のインタビュー



〈演出・指導・脚本担当(両高3年)〉 6年間英語劇に演出として参加し指導してきました。本年度オープニング・アクトの脚本を手がけ、この作品は6年間の集大成に値する作品になったと思います。出来栄に関しては感無量というより、言葉にならないくらい感動しました。

～英語劇を通してともに過ごした 後輩たちへのメッセージ～

「君たちは、頑張れば、どんな事でも出来るはず。勉強でも部活でも、まずはトライしてみてください。出来るかどうかは、まずやってみてから。そこからすべては始まります。全力で頑張れ！」

〈演出・照明担当〉 全員を纏める事がとても大変でした。

〈字幕担当〉 字幕を作成することも大変でしたが、劇の流れに合わせて字幕を表示させることがとても難しかったです。

〈役者担当(3年連続)〉 演ずる事は、難しいと思いました。

〈英語劇担当の先生〉 今年は、100人を超える役名をすべて文芸部が考えてくれ、任せても大丈夫だと確信できました。皆さんが、日々上手くなっていくのがわかり、最後には、本当に犬の気持ちが伝わってきました。みんなの頑張りのおかげで、メッセージが伝わる舞台ができました。いつか、生徒が脚本を書くことに挑戦してほしいです。区大会・都大会も一緒に頑張りましょう。

本編を書くきっかけとなった絵本
「Wauschwitz」ワウシュウィッツ
吉川愛歩著:無双社

事前学習資料
「犬たちがくれた音」
高橋うらら著:金の星社

